



先日亡くなられたあるおばあさんが、日記をつけられていたという。葬儀を終えて家族が遺品の整理をしていた時、発見したとのことだった。

そこには日常の出来事や、その時々のお思いが綴られていたという。子も孫もその日記に眼を通しながら、家族全員がずいぶん心配をかけていたことを改めて思い知らされたという。日々の生活の中では測りきれなかった心情が、こうした形で伝わるのも、どこかしみじみとして良いものだ。

意図的に後世に残すことを目的とした遺言や遺書とは異なって、日々の素直な心情を書き記した日記は、その人を改めて見つめ直す機会になり、また同時に私自身の生き方と照らし合わせることによって、人生の「道しるべ」的な精神的な支柱になるかもしれないと思ったことだ。

以前私は法話をする機会をいただいた折に、脳細胞を活性化するために、日記をつけることをお勧めしたことがあるが、こうした事実のあったことを知らされて、また改めて日記をつける意味もあるものだと、思いを深くしたことだ。

四苦八苦

四苦八苦という言葉がありますが、これは本来仏教用語です。

T・S

- 生苦 うぶひん生むるの苦の掛り
- 老苦 めいひん老いの掛り
- 病苦 ひよひん病の掛り
- 死苦 ういひん死むるの掛り
- 愛別離苦 あいべりひん愛する者と別離する苦の掛り
- 怨憎会苦 おんぞひん恨み恨んでくる者に会う苦の掛り
- 求不得苦 べふとひん求めるものが得られない苦の掛り
- 五蘊盛苦 ぶつんじよひん肉体と精神が思うがままにならない苦の掛り

これらの八つの苦を、四苦八苦と言います。

今からおおよそ二千万五百万年前にお釈迦様は、これが人間の苦しみだとおっしゃったのです。私は少し驚きました。なぜなら現代人の苦しみも、二千万五百万年前と何も変わっていないのですから。

苦というのには少々大袈裟だと思われる方は、不安という言葉に置き換えてみれば分かりやすいかと思えます。

私は人生不安だらけです。人生は自分の思い通りにはなりません。頭で分かっている、自分の思いに執着してしまう自分がいます。執着しなければもっと幸せを感じられるのに、本当に愚かなことだと思えます。

今月の学習会の案内 七月十二日(土) 七時～八時半まで

内容 法話 荅院) 年間統一学習内容 お文に学ぶ

親鸞聖人の言葉」を通して 資料有) 意見交換



沙羅双樹

真宗本廟奉仕団に参加しませんか？

今回は日程の紹介をします。



昨年はおかげさまで親鸞聖人750回御遠忌を勤めさせていただくことができました。
 今年はその感謝の思いをもって、ご本山に奉仕団として参詣いたしたいと思っております。

忙しさに明け暮れてしまっている日常の私たちを、こんな機会に奉仕団としてご参加いただき見つめ直していただく機会にしていだければと思っております。

は全奉仕団共通の日程。

6:00	1日目	2日目
7:00	※同朋会館へは 午前11時までに入館します	起床・洗面 館内清掃
8:00		晨朝参詣 (帰敬式)・・・お剃刀(希望者)
9:00		朝食
10:00		帰敬式を受けた方の(法名伝達式)
11:00		清掃奉仕(軽作業です)
11:20	入館	諸殿拝観(日頃見れない諸殿を見せていただきます)
12:00	結 成 式	
13:00	昼 食	
15:00	両堂参拝 (記念写真撮影) オリエンテーション	講 義
16:30	お内仏のお給仕	座談会・(協議会)
18:30	夕 事 勤 行(感話) 夕 食	解 散 式 退 館
20:30	講 義 座 談 会	費用等は先月号に掲載。 入館前・退館後に観光予定あり。 申し込みは順次受け付け(8月中旬までに)
22:00	入 浴 就 寝	

住職からのお願いです。

近年の社会状況の変遷に伴い、葬儀のあり方も随分と変容してまいりました。

家族葬とか呼ばれる葬儀のあり方も実にさまざまで、寺院側としてその対応に戸惑っています。

参加者数名の純粹に家族だけの葬儀なのか、親族関係だけの葬儀なのか、はたまた近所の親しい人を含めての葬儀なのかと、全くさまざまで、しかもすべてが家族葬としてひっそりと行われている場合が多いのです。会場も和式の小部屋から、大会場までと、儀式執行上、戸惑う事が多いです。

事前の打ち合わせが十分されていけば、おおよその事は解消されますが、導師一人で行うのかどうかは寺院側には大切な葬儀執行の内容となります。本来葬儀執行には最低二人を要します。施主側の事情により、何度か一人で行ったこともあります。葬儀式の形が整わず、葬儀そのものの重々しさもなくなってしまう。いっしょに皆さんの思いの中に導師一人でもできるんだと、思われてしまっているようです。住職としては無くなられた方への思いも含めて大変苦慮いたしております。

今後、基本的には二名での葬儀執行とさせていただきます。前にご相談いただくことをお願い申し上げます。